

事業系ごみの適正処理と減量のために 真似しよう！プロジェクト

こんなことを考えたこと
ありませんか？



- ☒ 時間も人手も足りないから、廃棄物のことは後回し
- ☒ それでも、廃棄物処理コストは少しでも削減したい
- ☒ 環境問題への取組というけれど、何から始めればいいのか分からない

廃棄物管理責任者の皆様からの、このような声にお応えして、この度、事業系ごみの適正処理と減量のための優良事例集を作成しました。



廃棄物管理責任者が実践するメリット

処理コスト削減

まずは、排出状況の把握を！！

職場での環境意識向上

適正分別はリサイクル率向上への近道！！

企業イメージの向上

整理整頓された社内は好印象！！

CASE 1

株式会社図書館流通センター (TRC本社ビル)

【企業情報】

全国の公共及び学校図書への書籍販売や図書館運営を行う企業です。本社ビルは 7,000㎡を超える大規模建築物となっており、約 400 名が働いています。廃棄物管理責任者は社員が通常業務と兼務で担当しており、SDGs等の環境問題にも積極的に取り組んでいます。ペーパータオルのリサイクル処理を今後の課題としています。

まずは行動！！

図書館流通センターでは平成27年度の再利用率が、区内大規模オフィス平均再利用率よりも下回っていました。

社内の廃棄物管理責任者は、再利用率を向上させることが廃棄物処理費用を抑えることにつながるのではないかと考えていました。平成28年に文京区の立入検査において、ミックスペーパーの再利用を推進するよう指摘があったことをきっかけに「本社全部署で連携して行動しよう！」とリサイクルの検討を開始しました。



廃棄物処理費用の削減はどの企業でも課題となっています。



▲収集運搬業者とのやり取りから作成した自社専用の分別表。「何を」「どこへ」「どうするか」が一目で分かりやすくまとまっています。

自発的な分別のために

分別しやすい環境を整えるため、収集運搬業者にミックスペーパーなどの再利用可能紙の処理可能品目を確認しました。

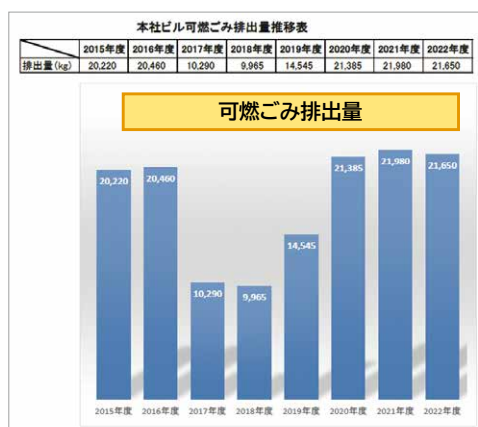
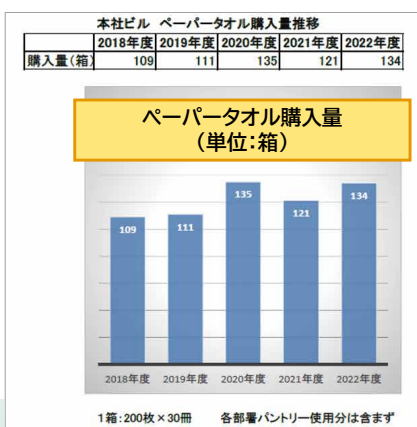
その中には自社では排出されない品目もあったため、分かりやすさを重視し、自社の排出傾向に基づいた分別表を作成しました。当初は分別が分かりにくく、リサイクルできないものの混入などもあったそうですが、協力的な社員も増え、そこから徐々に分別の意識が広がっていきました。

部署によりリサイクルへの温度差がある中でも、根気強く周知啓発を行いリサイクルの取組を実施していった結果、徐々に興味を持って自発的に分別に取り組む社員が増え、分別が分からなければ声をかけてくれる社員もいたそうです。

取組結果の共有と、今後の課題が明らかに

分別に取り組んだ結果、翌年には可燃ごみの排出量が半減し、廃棄物の処理コストを削減できました。削減量などの実績データを社内共有すると「こんなに成果が出るんですね」「分別することにはこんな価値があるんですね」といった反響も多くあり、社員の意識も高まっていることが実感できました。

一方でコロナ流行によりミックスペーパーの回収を収集運搬業者から断られる状況が続き、可燃ごみの排出量が増えました。現在は一部の品目で回収が再開されていますが、その中でも使用量の多いトイレ等で使うペーパータオルは未だ回収不可です。消毒頻度の増加に伴いペーパータオルの購入量が増えています。施設内でペーパータオルの使用を禁止することは難しいですが、排出量減＝購入量減とすることが結果的に経費削減となるため、ペーパータオルのリサイクルや使用ルールについて、今後の課題としています。



【文京区からひと言】

ペーパータオルを建物内のトイレなど共有エリアに設置している事業所もあるのではないのでしょうか。ペーパータオルのように現在はリサイクルできない品目となっても、今後、リサイクル可能になる事も考えられます。日頃から廃棄物処理に関心を持ち、常に目標を設定する。現状に止まらず意識的に廃棄物処理に向き合う姿勢は、皆様にも是非真似してほしいポイントです。



文京区

真似してポイント！

～処理コストの削減策～

自社や管理物件での廃棄物の契約状況を確認してください。古紙、ミックスペーパー等の再利用紙類の契約はありますか？通常、一般廃棄物よりも再利用紙類の方が処理料金は安い傾向にあります。一般廃棄物としてではなく、再利用古紙として処理することでコスト削減につながりますので是非実践してみてください。

ここでは、例として再利用古紙として分別を行わない場合と、行った場合の比較をしています。

※ 例えば ※

一般廃棄物処理料金が35円/kg(毎月の排出予定1,500kg)契約のみと
再利用古紙処理料金が10円/kgの契約があり↑から500kg分別した場合

一般廃棄物処理費用として

1,500 kg × 35 円 × 12 月 = 年間 **630,000** 円の処理コストがかかります。

古紙リサイクル契約として10円/kgで契約

+

一般廃棄物から紙リサイクルとして500kg分別すると

一般廃棄物処理費用として

1,000 kg × 35 円 × 12 月 = 年間 **420,000** 円

古紙リサイクル費用として

500 kg × 10 円 × 12 月 = 年間 **60,000** 円

+

紙リサイクルしない場合
630,000 円

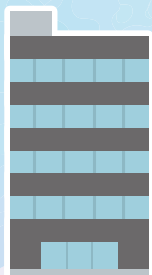
紙リサイクルをした場合
480,000 円

年間 **150,000** 円
コスト削減の可能性



“まずは取り組む”ことが重要です。そのなかで現状を的確に把握してリサイクルに取り組み“成果と目標”を共有して、協力しやすい環境作りをしてみたいかがでしょう。

◀廃棄物管理責任者の勤務する部署では、実際の排出傾向や使いやすさを考慮して、ごみ箱に付いていたフタを外し、段ボールで自作したフタを使用していました。お金をかけることなく、捨てやすさ(=分別しやすさ)につなげています。



CASE 2

大星ビル管理 株式会社(小石川4丁目ビル)

高い再利用率を継続している理由は

ISO取得のタイミングで、現在の廃棄物管理体制を始めました。以前から管理部門において分別やリサイクルの取組を行っていましたが、平成21年から排出量等の数値をデータ管理しています。再利用率はその年の事業内容により、多少の上下があるものの取り組んだ結果を社内で共有することで、全社員のリサイクルへのモチベーションが維持され、高い再利用率をキープしています。

ゴミ箱ごとの「混入率」を算出！

部署ごとにごみ箱に番号を付け、それぞれの「混入率」を計測し、毎月各部署へフィードバックしています。例えば、「〇〇課のロッカー前のごみ箱の混入率は〇%で、プラ製の包装紙が可燃に入っていた」といったように、混入物を詳細に把握・管理しています。そして、軽微な混入であっても、よく間違えてしまうものは混入物をごみ箱付近に掲示し(5ページ下側参照)注意喚起をするなど、視覚的にも適正分別の啓発を行っています。



▲フロアごとに設置されているゴミ箱には識別番号を設定し、回収時の混入状況等を記録しています。データは共有され、日々改善が続いています。

結果を共有してやる気UP！！

分別方法が分からずに分別できないのであれば、その「分からず」を未然に防ぐためには、日頃からの周知啓発がとても重要です。フロアごと、ゴミ箱ごとの混入率を共有することは適正分別への意識の向上にとっても有効でした。どの部署が分別できていないか一目瞭然になりプレッシャーを感じるかもしれませんが、部署ごとに自発的に分別することができていました。

【文京区からひと言】

今回お話を伺った社員の皆様も十分注意して分別をしていることが強く感じられました。混入率の共有が、一人ひとりの分別に注意する意識と、よりよい職場環境作りにつながっていますね。

自社での取組が、企業評価へつながる

企業訪問されるお客様にとって、その企業の清潔さが企業イメージに与える影響は大きいのではないのでしょうか。大星ビル管理株式会社の事業内容は、社名にもあるようにオフィスビル等の管理です。「まずは、自らを律する」という目的で、自社や入居物件の管理を適正に行い、その取組が結果として社会的な評価につながるものと考えています。近年ではSDGsなどの環境問題への取組も企業評価につながるものと認識し、社のモチベーションとして積極的に取り組んでいます。

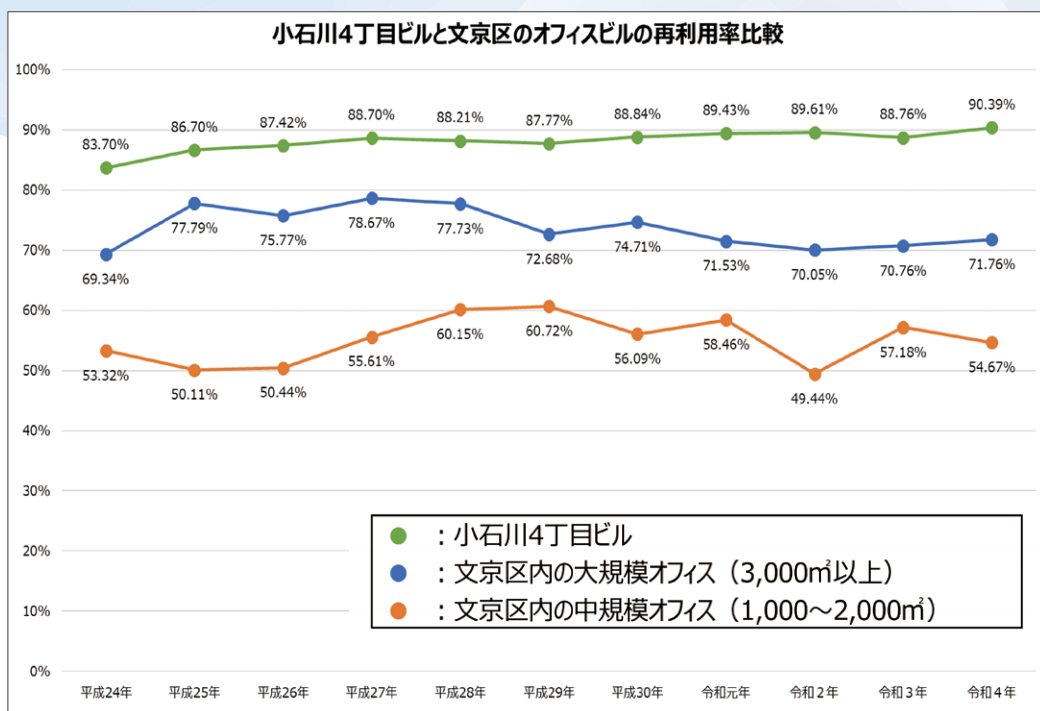


入社、異動の際には役職関係なく全員が研修受講

小石川4丁目ビルと文京区内のオフィスビルの再利用率を比較してみましょう。小石川4丁目ビルは10年以上に渡って80%を超える再利用率をキープしています(現在は90%超)。役職に関係なく行われる社内研修によって、社員の廃棄物管理や分別についての「**分からない**」ことを限りなくゼロにすることが、高い再利用率の維持継続につながっていると考えています。

【文京区からひと言】

再利用率に限らず、このように「**数字(成果)を見える化**」することによって、全社員への共有が容易になったり、気になったときすぐに確認が行えたりするようになります。是非実践してみてください。



皆様の建物や管理物件の再利用率と比較してみてください。
平均を下回っている場合、廃棄物処理の内容を見直すタイミングではないでしょうか。

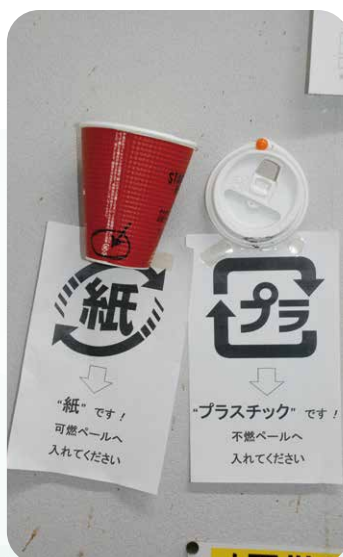


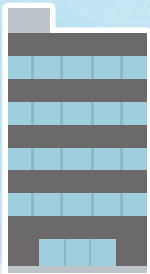
文京区

真似してポイント！ ～ごみの実物を掲示して適正分別対策～

大星ビル管理株式会社では、デスク足元周りの個人用ごみ箱は設置していません。ごみ発生時には、フロアのごみ箱へ持って行くことになります。その結果、ごみが発生しにくくなり、ごみ箱での分別になるため適正分別に有効です。しかも、リサイクル可能な紙類が汚れる前に分別することができるので、再利用率の向上が期待できます。ごみ箱周辺には、よく間違えてしまうもの、一緒に捨ててはいけないものについて、目線の高さにごみの実物を掲示しています。これは、建物内に独自の分別ルールがある場合の啓発にも有効です。

お菓子の箱やプラカップなど実物を掲示することはインパクトがあり、目にとまりやすいです。





CASE 3

株式会社カインズ

【企業情報】

体外診断用医薬品や医療機器を製造販売する会社です。建物は1,000㎡を超える中規模建築物であり、廃棄物管理は総務課で行っています。5S推進プロジェクトメンバーが社内を定期点検し、ごみの分別状況の確認を行い、問題点があれば社内でも共有します。ミックスペーパーの分別に積極的に取り組んでいます。

区の立入検査を契機に

区は、平成29年度に実施した立入検査の際にミックスペーパーの分別が不十分であり、取組を強化するよう指摘しました。これに基づきミックスペーパーの分別を徹底する取組を始めたところ、その成果は再利用率の向上として現れました。下図は、株式会社カインズの再利用計画書を基にした、排出量と再利用率のグラフです。紙リサイクルの取組を始めると、可燃の収集量が減ります。可燃の中からリサイクルするものを、適正分別することで再利用率がググッと向上していることが分かります。毎年の再利用率改善が全社員のリサイクル意識向上につながっています。

5Sプロジェクトや社内会議を共有の場として

幅広い年齢層で構成された5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)推進プロジェクトメンバーが、定期的に社内を巡回し、様々な視点から改善点を指摘しています。その活動内容は安全衛生委員会に報告され、各部署で共有されます。また、毎年区に提出する再利用計画書の「前年度実績」と「今年度計画」を社内報に掲載し、全社員に目標数値として周知しています。



ポストコロナで変わる排出傾向

コロナ以前は、会議やセミナーの資料は多くの紙を使用しており、排出量を減らすことができませんでした。これは、どの企業でも同様であったはずですが、コロナ禍によりオンライン会議やデジタル資料の活用などにより、図らずもペーパーレス化が進みました。ポストコロナでも引き続き再利用率の向上と排出抑制を意欲的に実施していました。右上の写真は5S推進プロジェクトで作成した紙リサイクル用の分別表です。回収容器は左下の写真のようにダンボールを再利用しています。



文京区

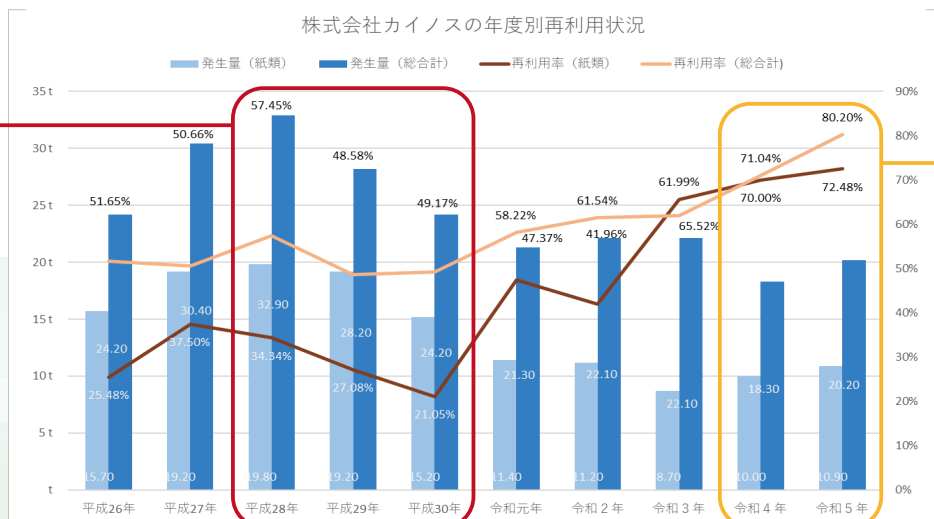
真似してポイント！
～再利用状況の見える化～

排出される廃棄物は、ご紹介している企業によって様々でした。また、社内の各部署によっても排出される品目や量は変わります。そのため、**同じ視点で取り組んでも、正解は1つではありません。**廃棄物処理にかかわること

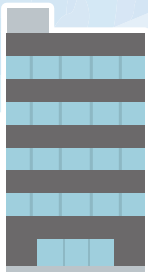
で皆様の使用状況に適した分別と啓発方法が見えてきます。

●立入検査を行った、平成29年(2017年)にはペーパーレス化に取り組んでおり、可燃ごみの発生量が減少し始めています。

●平成30年(2018年)から建物内の紙リサイクル徹底の効果が表れ、再利用率が向上しました。古紙分別容器はダンボールでOK！すぐに真似できますね 🍀🍀🍀🍀
分別しやすい環境作りは協力して取り組むための重要なポイントです！



●コロナ禍での廃棄物処理状況は誰にも予想がつかないものでした。アフターコロナではテレワークや資料のデジタル化等で廃棄物の発生抑制が促進されています。不要な資料の処分で一時的に廃棄物の発生量が増えますが、その中からリサイクルできるものを適正に分別することが大事です。また、今後の取組に向け、廃棄物の処理実績を確認することはマストです！



CASE 4

フクイン株式会社

【企業情報】

商業印刷から書籍まで扱う印刷会社です。建物は工場を含む面積が1,200㎡を超える中規模建築物であり、一般廃棄物、産業廃棄物のほか、塗料、インク、廃液など多種多様な廃棄物を処理しています。廃棄物のデータを適切に管理し、共有することで、廃棄物管理責任者の引継ぎを確実にを行っています。

【文京区からひと言】

優先度が低く後回しにされがちな廃棄物管理の引継ぎですが、事業者としては切り離せないものが廃棄物処理です。必ず引継ぎを行うことで「知らなかった」ものが見えてくるのではないのでしょうか。

たかが引継ぎ、されど引継ぎ

立入検査の際には必ず「前任者からの引継ぎはありましたか？」と質問していますが、「ありました。」という返答は少ない現状です。廃棄物管理責任者は実際の業務と違い、引継ぎの優先度が低く、引継ぎされないことが多いようです。皆様の場合はいかがでしょうか？しかし、ごみは毎日出るもので「分からない」ままでは対応できません。そのため、廃棄物管理についての引継ぎは必ず行ってください。今回お話を伺った担当者の皆様からは、引継ぎは必要であると回答いただきました。さらにフクイン株式会社では、引継ぎは内容だけでなく、収集運搬業者と顔合わせを行うことで、分別の際の不明点やデータ管理のやり取りが円滑になったといえます。

適正管理で得られるメリット

区では、毎年5月31日までに再利用計画書の提出をお願いしています。作成に多くの時間を要し、何をどうしたらいいのかわからずに後回しという方もいらっしゃるのではないのでしょうか。フクイン株式会社では、引継ぎをした際に前任者がデータファイルを作成してくれていて、そこに収集運搬業者から毎月送られてくる収集実績を入力さえしていれば、再利用計画書の作成は約1時間で完了するとのことでした。最初にデータファイルを作成する手間はかかりますが、そのデータを使用して、全社員に共有することもできますし、日常的に行うごみ処理の現状を目視できる環境は、意識の向上にとっても有効です。ごみを出す皆様が、リサイクルできるものとそうでないものを理解し、自主的に取り組むことができる環境が理想ですが、そうはいかないのが現状です。まずは、協力しやすい環境で、廃棄物処理に取り組むことがとても大事です。



▲ごみ箱上にあったリサイクル対象品目の表示には、分別をしたものが、どの業者に回収されているのか業者名も確認できます。担当者が変更になっても、収集運搬業者が分かればすぐに対応可能ですね。



文京区

真似してポイント！

～廃棄物管理責任者の負担軽減～

近年の価格高騰で処理コストも増加しています。見直すタイミングは今かもしれません！！

再利用計画書の作成時間を削減できる可能性も

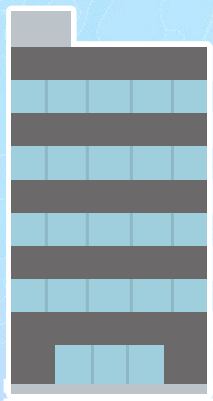
廃棄物管理責任者に実行してほしいこと

廃棄物の管理状況の確認	収集運搬業者からの実績報告書を確認することで削減すべき廃棄物が明確になる
再利用計画書の作成	日頃からデータ入力を行うことで短時間で作成が可能になる
収集運搬業者との連携	廃棄物管理責任者の選任時に顔合わせをすることで連携して廃棄物処理が可能になる
排出量の把握	排出量をデータ化し各部署と共有することで社内全体で課題を認識できる
排出傾向の把握	各部署と協力して排出傾向を分析することで各部署へ適切な分別の啓発ができる
処理コストの削減	排出量と傾向を認識することで処理コストの削減が期待できる

毎年提出を依頼している再利用計画書ですが、1時間程度で作成できる場合もあれば、一日中取り組んでやっと完成したという声も少なくありません。

短時間で作成が可能な廃棄物管理責任者の共通点は、普段から廃棄物の状況をしっかり把握しているということです。

収集運搬業者から送付される収集実績をその都度入力したり、フロアやテナントの担当者と積極的に情報交換したり、日常的な業務の積み重ねが再利用計画書の作成時間の短縮や廃棄物の削減だけでなく、さまざまなメリットがあります。



CASE 5

サミット 株式会社

【企業情報】

サミットは食品スーパーマーケット及びその他生活関連商品の小売チェーンです。首都圏で123店舗(令和7年1月現在)、区内には2店舗あります。「GO GREEN」チャレンジ宣言は、SDGsを踏まえ、サミットとして取り組むべき社会課題の重点テーマである、食品ロスの削減やリサイクルの推進など、さまざまな取組をまとめたものです。

地域とともに

社会的にSDGsへの意識が高まるなか、サミットでは「GO GREEN」チャレンジ宣言のもと、企業として目指すべき行動等を令和3年7月に示しました。宣言の中には、食品ロスの削減と食品廃棄物のリサイクル推進、プラスチック使用量の削減など、地球にやさしい調達・利用の推進として廃棄物の処理に関する内容についても定めており、積極的に取り組んでいます。

このような取組は、社内だけでなく、店舗を利用する地域住民に対しても、正しい分別方法を啓発することにより、リサイクル意識の向上を図っています。

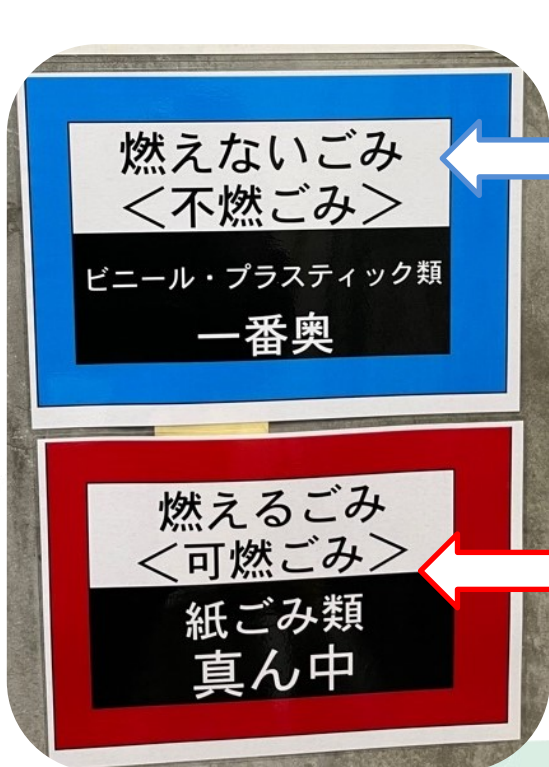
捨てるアタリマエを棄てる

「GO GREEN」チャレンジ宣言の一環として、「もぐもぐシール」が貼られた消費期限間近の商品を購入すると、寄付や抽選に参加することができる「もぐもぐチャレンジ」を実施しています。これにより、楽しみながら食品ロスと廃棄物削減に貢献しています。



小売業特有の課題

事業の性質上、社員数に対し、パート・アルバイトの割合が非常に高く、入れ替わるスピードも速いといった特徴があります。また、近年では外国人の社員等も増加しています。店舗は営業時間が長く、社員らのシフトもバラバラなため、一般的なオフィスと比較すると、社員間の情報共有が困難なことが課題となっていました。廃棄物の処理についても、詳細に分別を指示した分別表を掲示して周知・啓発しましたが、パート・アルバイトの方たちに理解してもらうことはできませんでした。



簡潔な品目表示(ビニール・プラスチック類)と、捨てる場所(一番奥、真ん中)を一緒に表示することで、間違いが格段に減ります! 安価で作成することができるので、すぐにでも真似することができます!!



上記取組の実施により、混入が大幅に減少するなど、着実に効果が表れてきました。また、採用後、間もないパート・アルバイトの方たちもすぐに分別のルールを理解し、二次分別の手間を大きく減らすことができました。

分別する人の目線に立つ

そこで、ごみを分別する人の目線に立ち、分別表の内容を見直しました。まず、掲示していた収集運搬業者が作成した分別表をベースに、店舗での実績を踏まえ、排出量が多いものについてはイラストや実物などを活用し、目立つように表示しました。また、ごみ箱の位置や大きさについても、排出量に応じて変更し、品目表示と合わせて設置することで、限られたスペースであるバックヤードであってもスムーズに作業ができるように工夫しました。このように、「一目で分かること」「分別する人の目線に立つこと」を意識して、既存の分別表をアレンジしたり、作業スペースの配置を工夫したりすることで、誰でも簡単に適正な分別ができることを目標としました。

最初が肝心

誤った認識で分別していた期間が長ければ長いほど、改善に要する時間も長くなる傾向があります。そのため、問題を把握したら、改善するための**周知啓発スピード**が重要になります。

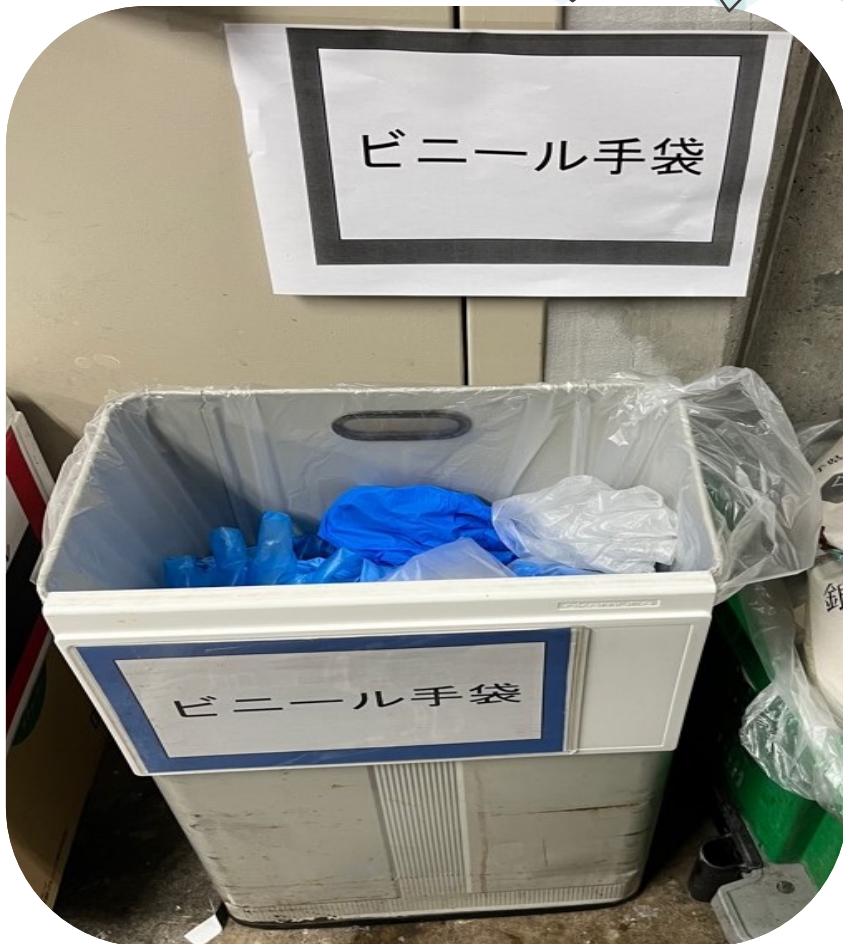
誤った分別が定着する前に、適切な分別方法についてスピード感を持って周知啓発することが、廃棄物管理責任者として求められる大切な役割の一つです！

真似してポイント！

～間違わないための作戦～



文京区



事業系ごみは事業系一般廃棄物と産業廃棄物に二分されますが、ビニールなどのプラスチックは産業廃棄物として処理しなければなりません。以前、収集運搬業者から「ビニール手袋が**一般廃棄物**に多く混入している」と指摘されたことがありました。どうすれば、混入を防ぐことができるか検討し、すぐにビニール手袋専用のごみ箱を設置することにしました。

その結果、専用のごみ箱の中身は、ビニール手袋だけになり、混入を防ぐことができるようになりました。現在に至るまで、この分別ルールがしっかりと定着しています。

ここで重要なのは、ごみの種類ごとに同じ大きさのごみ箱を並べて設置するのではなく、間違いやすいものや排出量が多い廃棄物を分析し、状況に合った排出環境を整えることで、**不適正排出の「予防」**ができるということです。

適正分別は、廃棄物管理責任者だけで成し遂げられるものではありません。社員等や来店客にも適正な分別について理解してもらうためにはどうすべきかを常に考えなければなりません。

単に「収集運搬業者から指摘を受けたので、改善をお願いします。」と注意をするだけでは、その場では改善されたとしても、時間が経つと元に戻ってしまうケースが多く見受けられます。そこで、サミットの廃棄物管理責任者は、実際の分別状況を確認し、**「ここが間違い」**であり、**「どうしてその分別がダメなのか」**という理由まで説明をして、改善するように伝えています。そのためには、**「廃棄物管理責任者自身が廃棄物の分別方法を理解する」**必要があります。

面倒かもしれませんが、廃棄物管理責任者自身が基本的な内容を理解した上で適正排出のための取組を実施していただくことで、周囲の協力も得られ、結果として廃棄物処理に要する時間を大幅に削減することができます。

千駄木店の入口にあるリサイクル回収ボックスには社員らが作成したPOPで啓発を行っています。文字だけでなくトレー等の実物を掲示し、視覚的にも分かりやすくしています。正しく分別しないとリサイクルできなくなってしまうことを理解してもらうことは、重要なポイントです。



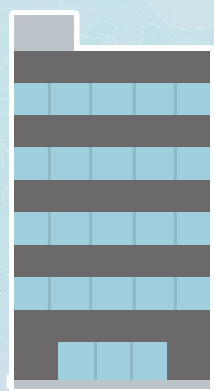
【文京区からひと言】

区では、廃棄物管理責任者の役割と廃棄物に関する法令等の理解の促進のため、廃棄物管理責任者講習会の動画を常時、公開しております。この機会に、廃棄物管理責任者以外の方も是非ご覧いただき、適正な分別方法を理解してください。



<https://www.city.bunkyo.lg.jp/b038/p007526.html>

【講習会関連ページ】



CASE 6

文化シャッター株式会社

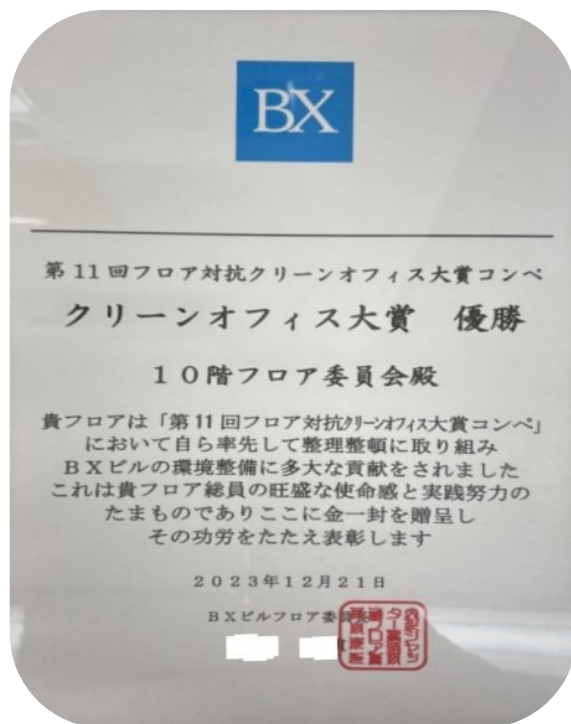
【企業情報】

シャッター・アルミニウム建材を取り扱う総合建材メーカーです。区内にある本社は9,000㎡を超える大規模建築物です。「地球温暖化を防止」、「資源を循環活用する」、「快適な暮らしを守る」建材の開発を進めるとともに、人と地球の快適環境の実現に向け、新たな価値の創造に取り組んでいます。

きっかけは東日本大震災

東日本大震災をきっかけに、フロアごとに節電のアイデアを出し合うコンペを実施しました。コンペで提案された優良な取組をピックアップして社内で共有し、各フロアで取り組むことで、社内全体の節電対策となりました。その後、「節電以外にも何かできることがあるのではないか」と検討し、職場の整理整頓とリサイクルや廃棄物の適正処理への取組を対象とした「クリーンオフィス大賞」として平成25年から継続的にコンペを開催し、昨年、12回目を迎えました。

令和5年に開催されたクリーン▶
オフィス大賞の表彰状

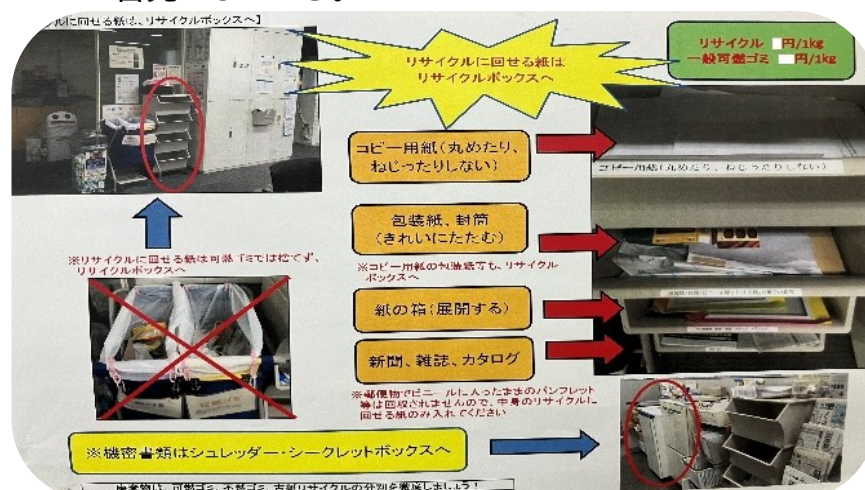


違和感の正体は分別環境

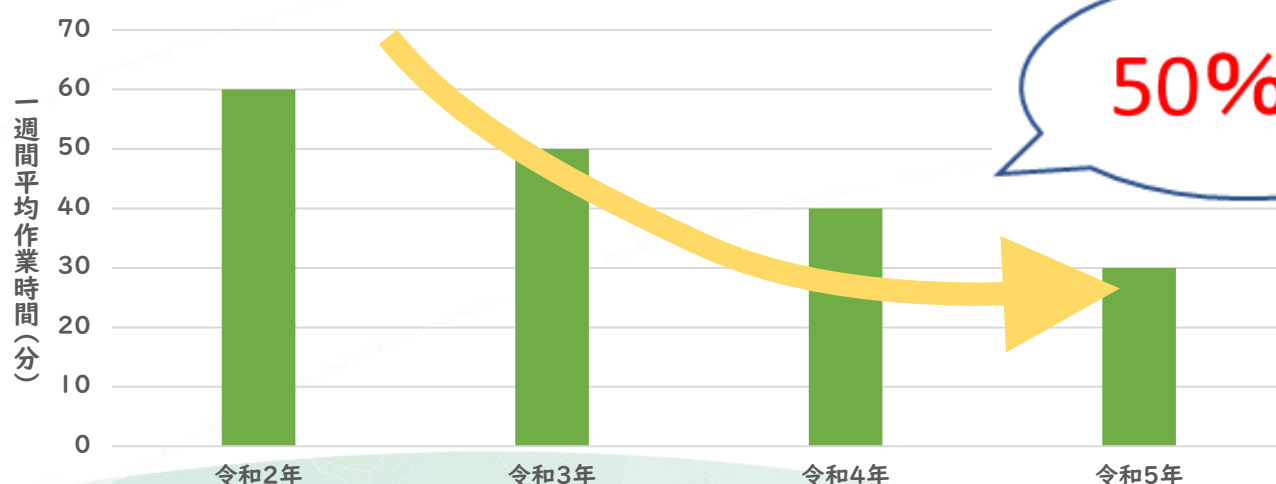
「クリーンオフィス大賞」と題してコンペを開催した当初は、「どうしてやらないといけないのか」といった不満や、家庭ごみと事業系ごみの分別方法の違いについて理解してもらえないなど、様々な問題がありました。原因を考えてみると、大きな違いはないものの、細かなところでは、フロアごとに業務内容が異なるため、ごみの発生状況に違いがありました。また、ごみの分別についての意識と理解に個人差があることが分かりました。

そこで、社内全体で最低限守るべき分別方法を「共通ルール」として全体で共有するとともに、フロアごとに「フロア委員」(役職不問・複数名)を選出し、フロア特有の多様な意見を吸い上げられるような工夫をしました。その結果、各フロアからは、「このようなごみが出るとき、こうすれば簡単に分別できるのではないか?」といった具体的なアイデアが活発に出てくるようになり、フロアごとに効果的な取組を展開することができるようになりました。

▼古紙リサイクルの分別について細かな説明を入れて啓発をしている。



廃棄物管理責任者としての作業時間



50%減

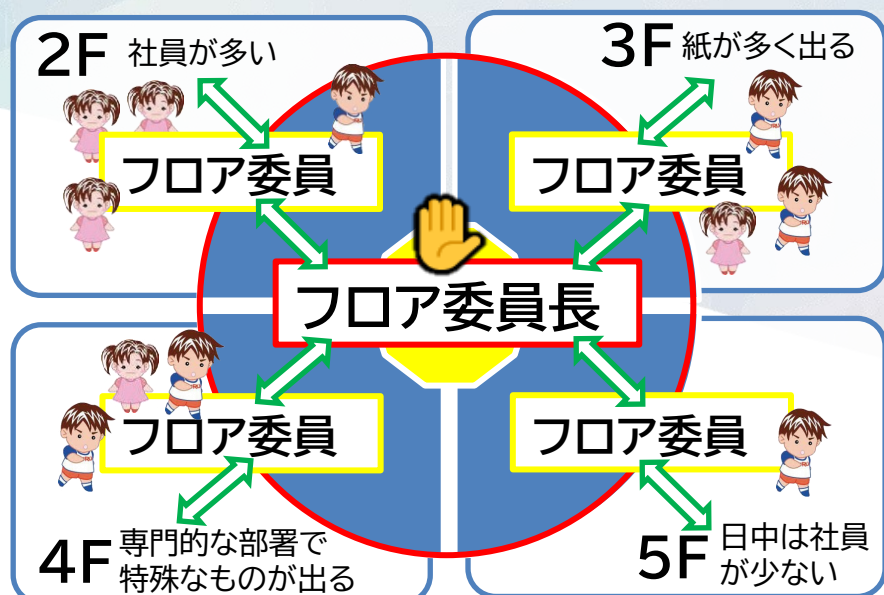
◀フロアごとに自主性が生まれ、適正分別の**効果的な取組が社内に定着**した結果、周知啓発や清掃会社への連絡といった業務に要する時間が少なくなり、廃棄物管理責任者としての業務量が大幅に減少させることができました！

【文京区からひと言】

「事業者は、その事業活動に伴って生じた廃棄物を自らの責任において適正に処理しなければならない。」と法律で定められています。(廃棄物の処理及び清掃に関する法律 第3条 事業者の責務)

ところが、区が実施する立入検査において、基本的な分別方法が事業所内に浸透していないことで、管理が不十分になり、その中には「とりあえずごみをまとめておけば、収集運搬業者が持って行ってくれるので大丈夫」と考えている事業所が散見されます。廃棄物処理は、排出事業者の果たすべき役割が重要であることをご理解ください。

例えばこういうこと



▲各部署から複数名のフロア委員が選出されます。その委員の中から**フロア委員長**がフロア内の課題など意見を挙げます。社員から出たアイデアが社内全体での取組として共有されています。

排出傾向も取組方もそれぞれ

コンペの開催により、社内全体で適正処理ができる環境の整備が進みましたが、時間が経過するにつれて、取組が徹底できていないフロアも出てくるなど、徐々に取組方の温度差を感じるようになりました。その停滞した状況を打破したのは、フロア委員の中から立候補により選任されたフロア委員長でした。

委員長を中心に、停滞している取組の中から、紙資源や廃棄物の分別方法の啓発活動をピックアップし強化しました。このことにより、フロアごとの排出傾向に合わせた分別が行えるように独自の分別表を作成するなど、自発的な取組が見られ、社員全体の意識の向上を感じました。

廃棄物の適正な処理は、ごみを捨てる個人の理解度と密接に関係しており、最終的には処理費用に大きな影響を及ぼします。個人の小さな行動が、ごみの発生抑制や適正な分別、処理費用の削減へとつながります。

「分別しないと回収しません」

社員の協力だけで、改善することができたわけではありません。社内の状況を熟知した清掃会社や収集運搬業者にも協力を要請し、分別方法のアドバイスやクリーンオフィスコンペの審査員として参加していただくなど良好な関係性を構築しています。特に、収集運搬業者は他の事業所の分別状況も把握していることから、「あの事業所では、こんな分別方法で管理をしていて混入がありません。」など貴重な意見を頂戴しています。また、分別ができていない場合、清掃員にも協力してもらい、回収しないという措置を取りました。

このとき、「**どうして回収してもらえないのか**」という問合わせを、

あえてさせるようにすることで、社員にとっても貴重な気づきの機会となり「**誰かがやってくれるだろう**」という意識を「**自分たちでやろう**」という意識に変え、一次分別の徹底につなげることができました。



▲基本的なルールを理解しているので、収集運搬業者の分別表から各フロアで実際に捨てられるものを抽出して、独自のイラスト入りの分別表が作成できます。この取組だけでも混入は大幅に改善されます！

真似してポイント！

～最初は意識！その後は日常に～



文京区

◆『根気強く』社内全体で取り組むこと

廃棄物管理責任者やフロア担当者が、**日常的に分別などを確認している姿**は、社員や建物利用者の目につき、気づきとなって**意識する**ようになります。

◆建物の清掃会社や廃棄物処理業者と連携すること

アンテナを広げ、少しでも**良い取組は積極的に取り入れる**柔軟な姿勢を持つことが求められます。優良取組事例集では、他社の優れた取組を紹介しておりますので、是非、参考にして取り組んでください。

CASE 7

株式会社山櫻 東京支店

【企業情報】

山櫻は名刺・封筒・挨拶状などオフィス向け紙製品を中心に扱う会社です。区内にある東京支店は、1,000㎡を超える中規模建築物です。「すべての出逢いを未来の豊かさへつなぐため いまを大切に輝き続ける企業を目指します」を企業理念として、今まで廃棄されていたバナナ繊維を使用したフェアトレードペーパーの販売などにより、積極的に持続可能な社会の創出に貢献しています。

環境への想いを込めて

紙を扱う会社として、再生紙やフェアトレードペーパーの利用など環境等に配慮した取組を積極的に行ってきました。平成29年に東京支店が竣工するに当たり、すでに行っていた紙資源リサイクルの精度をさらに向上し、徹底的に取り組もうと、関係部署や古紙回収業者と協力して細かい分別やルールを作成し、社内に周知しました。

地道が近道

導入当初は、社員の認識の違いにより、ルールと異なる分別が多く見られました。そこで、正しく分別がされていないときは、その都度、朝礼やメール、グループチャットなどでその内容を共有したり、分別表を分かりやすく改善したりするなど、必要な対応をしました。地道なことですが、**すぐに情報共有し、同じ内容であっても正しくできるまで繰り返し続ける**ことで、分別状況の改善が見られるようになりました。



▲古紙の買取単価など、重要なポイントを分かりやすく記載することで、意識して適正に分別してくれる社員も増えました。

三方良し

昭和6年の創業以来、紙製品と長年向き合ってきた紙製品メーカーの責務として、環境貢献に力を入れています。SDGs関連の勉強会を定期的に行うことで、社員の意識が向上し、各セクションで独自に分別する際の注意点や分別方法の工夫を行うようになっていきます。その中でも、特に古紙の分別に注力しており、古紙回収業者と緊密に話し合いを重ねることで、処理単価の軽減や古紙の買取などにより、トータルで処理費用を抑えることに成功しました。面倒だと思うかもしれませんが、現在では、社員も当たり前のようになっています。継続して実施することで一人ひとりの習慣として定着させることが大切です。

▼古紙だけでも**6種類に分別**し、担当者と責任者のチェックをして、古紙回収業者へ引き渡しています。



色や素材、折れ等にも注意して分別を行います。▼

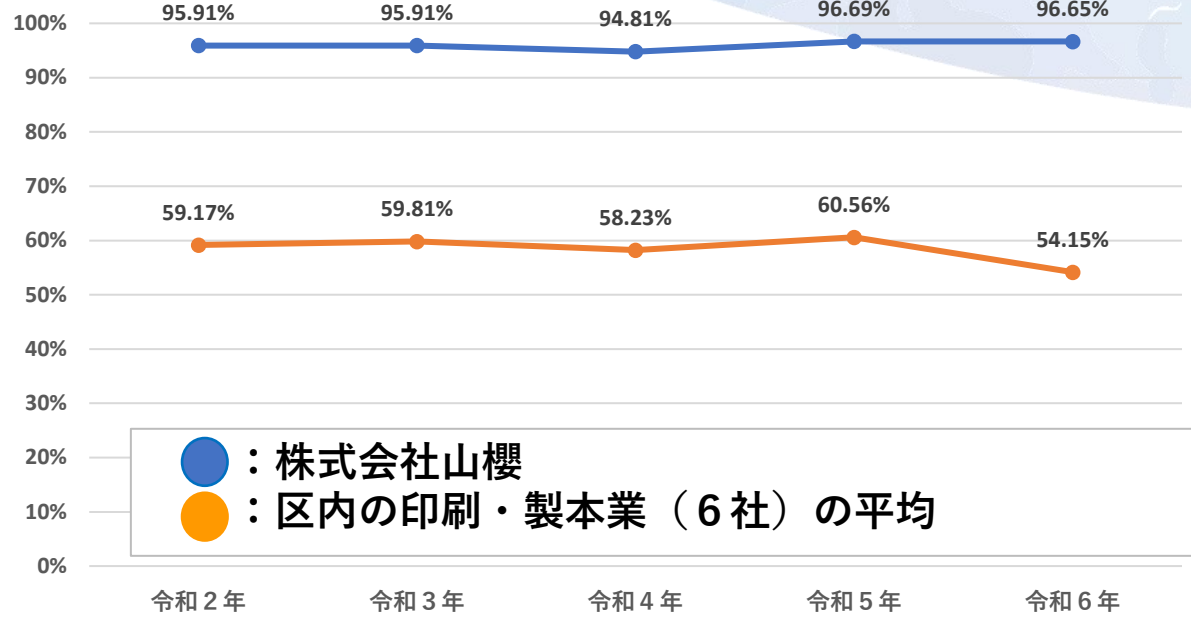


真似してポイント！

～価値を上げる分別～

文京区

再利用率（可燃ごみ）



◀古紙を「ごみ」ではなく「資源」として分別することが、リサイクルできるか、廃棄物として処理しなければならないかの大きな分かれ道です。

古紙を徹底的に分別することで、回収業者が買い取ってくれる場合もあり、リサイクル費用は廃棄物処理費用の半額以下になっているケースも数多く見られます。まずは、古紙の回収業者に確認し、**リサイクルが可能な品目を把握すること**が重要です。

以上のように、古紙の分別を徹底することで、処理費用やごみ発生の抑制につながります。しかしながら、古紙の分別が進まないという現状があります。その要因は、「リサイクル可能品目の認識不足や適正分別が定着していない」ことではないでしょうか。

一方、びん・缶・ペットボトルについては適切に分別されています。そのような事業所では、以下の表の「B社」のように産業廃棄物よりも安価な費用で処理を委託している場合があります。

産業廃棄物の処理料金(例)		
	産業廃棄物 (円/kg)	びん・缶・ペットボトル (円/kg)
A社	65	65
B社	65	35

◀処理費用が安価になっているのは、ラベルを剥がしたり、キャップを分別したりと適正な分別を行っているためであり、結果として「資源」としての価値を高めています。
みなさんの事業所では、どのように分別し、「資源」としての価値を高めるための工夫をしていますか。

びん・缶・ペットボトルのように**リサイクルする習慣**が身についており、「分別をどのように行うべきか」ということが理解できていると、スムーズに適正な分別を行うことができます。

古紙についても、「丸めて捨てる」のではなく、「リサイクルBOXに入れる」ことを習慣にすることが価値を高めるための第一歩となります。「資源」に分別するために、「どんなものが古紙となるのか」、「どのように古紙を分別しなければならないのか」ということを古紙の回収業者に確認してください。分別方法を理解すると、古紙もびん・缶・ペットボトルのように処理費用が安くなる可能性があります。

廃棄物の処理料金(例)					
	一般廃棄物(円/kg)	古紙リサイクル(円/kg)	産業廃棄物(円/kg)	びん・缶・ペットボトル(円/kg)	廃棄物処理(円/kg)
A社	35	35	65	65	200
B社	35	10	65	35	145

契約書をチェック！！

▲古紙とびん・缶・ペットボトルの処理料金の違いにより処理単価に大きな差が生じます。

捨てる前にちょっと待って！ 考えてみてください！
できる限りリサイクルすることで、処理費用を抑えることができます！
ごみ量削減とともに意識してみませんか？

【文京区からひと言】

意識が変われば行動が変わります。
行動が変われば習慣が変わります。
今までの習慣が変われば、費用面にも効果が！
意識を変えるなら、思い立ったその時！！



文京区

やる気！

協力！

行動！

継続！



ポイント



- 短時間・少ない労力で取り組むことができる
- 具体的な成果が出る
- 廃棄物の発生抑制で環境問題に貢献できる

是非ご覧いただき、どんどん真似してください！！
事業系ごみの排出削減・リサイクル促進を目指しましょう！！

以下の二次元コードより文京区に提出する届出様式への各種リンクがご覧いただけます。

文京区環境資源部リサイクル清掃課
清掃事業係

〒112-8555文京区春日1-16-21

TEL 03(5803)1182

FAX 03(5803)1362

b551000@city.bunkyo.lg.jp



文京区 事業者の皆さまへ
www.city.bunkyo.lg.jp

印刷物番号：J0223009